

大石主 税良兼
部屋住

介錯 波賀清太夫

堀部安兵衛 武廣

同 荒川十太夫

馬廻り知行三百石

同 加藤善右衛門

菅谷半之丞 政利

同 宮原久太夫

馬廻り知行貳百石

同 加藤善右衛門

木村岡右衛門 貞行

同 荒川十太夫

岡野金右衛門 包秀

同 大島半平

不破數右衛門 正種

同 荒川十太夫

近習祐筆百石

同 大島半平

中村勘助 正辰

同 大島半平

不破數右衛門 正種

同 荒川十太夫

近習祐筆百石

同 大島半平

大高源 吾忠雄

同 宮原久太夫

近習知行百石

同 大島半平

貝賀彌左衛門 友信

同 大島半平

藏奉行知行百石

同 大島半平

松平家にて介錯人拾人に五人被差出大かた切損じ面目を失ひしといへり
毛利甲斐守殿御預拾人左の通り

吉田貞右衛門 兼定

同 鴉飼總右衛門

無足忠右衛門 嫡子

同 鴉飼總右衛門

村松喜兵衛 秀直

同 江原清六

馬廻り知行百石

同 江原清六

武林唯七隆重

近習知行百石

小野寺幸右衛門秀富

無足十内嫡子

倉橋傳介武幸

近習廿石五人扶持

杉野十平次次房

近習金拾五兩五人扶持

間新六光風

無足喜兵衛次男

前原伊助宗房

金奉行拾石三人扶持

岡島八十右衛門常樹

介錯柳庄左衛門

同江原清六

同田上五左衛門

同近藤爲右衛門

同田上五左衛門

同柳庄左衛門

同近藤爲右衛門

勘定役知行百石

勝田新左衛門武堯

無役拾五石五人扶持

右拾人知行高合三百四十五石外に十八人扶持

水野監物殿御預九人

神崎與五郎則休

馬廻り知行三百石

間十次郎光興

無足喜兵衛嫡子

奥田定右衛門行尙

無足

矢頭右衛門七敬兼

無足小扈

介錯鴉飼總右衛門

介錯稻垣左助

同青山武助

同横山笹右衛門

同杉野源吉

赤穂美禪雪之曙

間瀬孫九郎正有

無足久太夫嫡子

村松三太夫高直

無足

芽野和助常直

徒士小性拾兩三人扶持

横川勘平宗利

臺所役人拾石四人扶持

三村次郎左衛門包常

徒目付拾兩三人扶持

四十六士戒名劔乃之二字首尾に備ふ

又空淨劔

又仲光劔

介錯小池權六郎

同廣瀬半助

同徳山久藏

同山本團六

同田口安左衛門

大石内藏助四十五歳

吉田忠左衛門六十三歳

又峯撫劔
又勘要劔
又因求劔
又舉道劔
又以申劔
又毛智劔
又勇拵劔
又泉如劔
又隨露劔
又窓空劔
又廣忠劔
又破了劔
又察周劔

原總右衛門五十六歳
片岡源五右衛門三十七歳
磯貝十郎左衛門廿六歳
間瀬久太夫六十三歳
小野寺十内六十一歳
堀部彌兵衛七十八歳
富森助右衛門卅四歳
間喜兵衛六十九歳
近松勘六三十三歳
潮田又之丞卅五歳
赤垣源藏卅五歳
速水藤左衛門四十七歳
奥田孫太夫五十七歳

赤穂美譚雪之曙

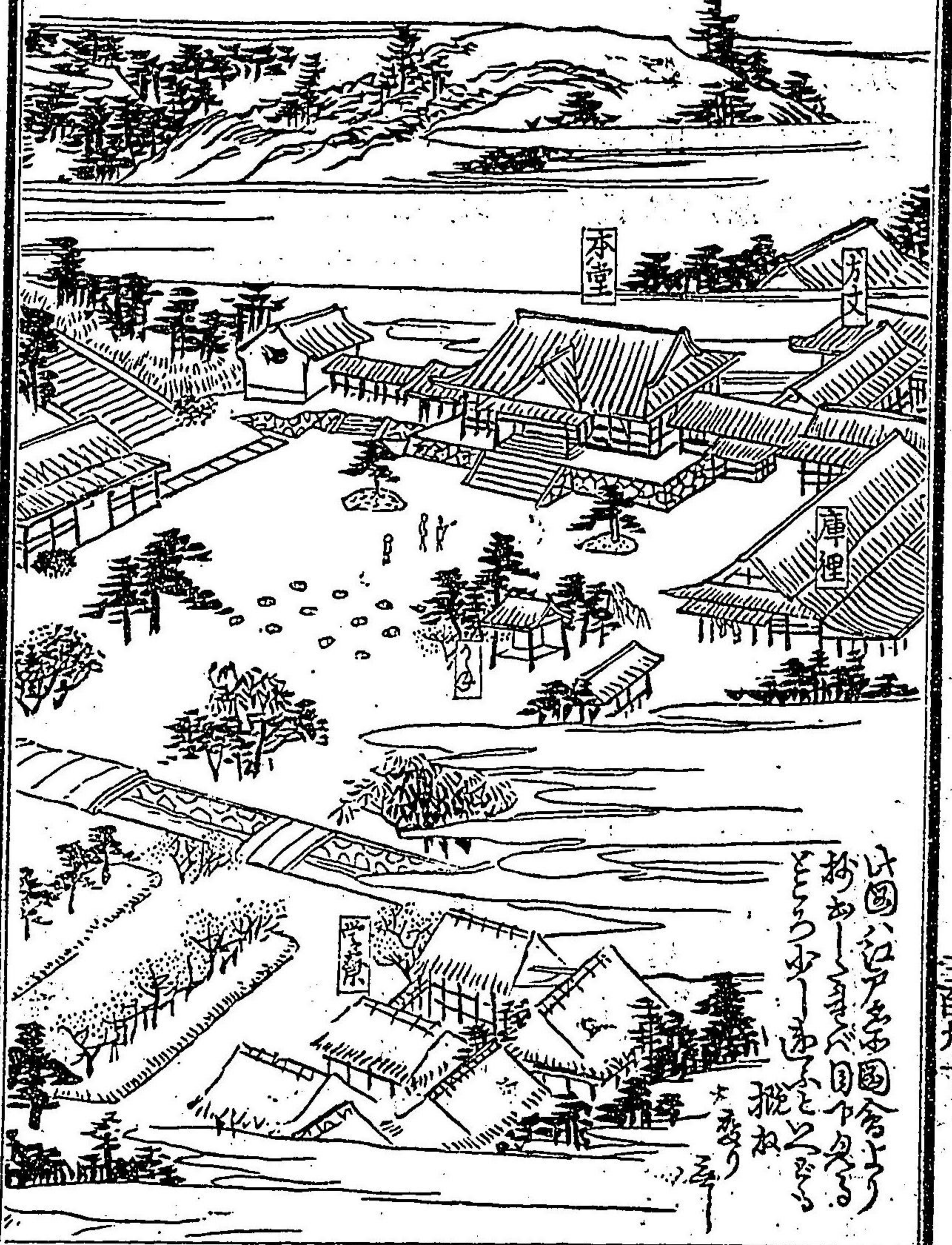
有	梅	法	參	德	寬	上	雲	水	通	回	觀	露	道	無	電	當
性	春	德	德	德	上	樹	輝	流	普	逸	祖	白	至	一	石	械
風	風	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
鍛	煉	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
可	仁	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
橫	唯	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
補	天	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
袖	掃	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
量	霞	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
利	教	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
澤	藏	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
湫	緋	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
擲	振	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍

矢田五郎左衛門廿九歲
 大石瀨左衛門卅七歲
 大石主稅十五歲
 堀部安兵衛卅四歲
 菅谷半之丞四十五歲
 木村岡右衛門四十六歲
 岡野金右衛門廿四歲
 不破數右衛門廿四歲
 中村勘助四十八歲
 千馬三郎兵衛四十五歲
 大高源吾卅二歲
 貝賀彌左衛門五十四歲
 吉田澤右衛門廿八歲

有	梅	法	參	德	寬	上	雲	水	通	回	觀	露	道	無	電	當
性	春	德	德	德	上	樹	輝	流	普	逸	祖	白	至	一	石	械
風	風	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
鍛	煉	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
可	仁	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
橫	唯	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
補	天	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
袖	掃	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
量	霞	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
利	教	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
澤	藏	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
湫	緋	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍
擲	振	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍	劍

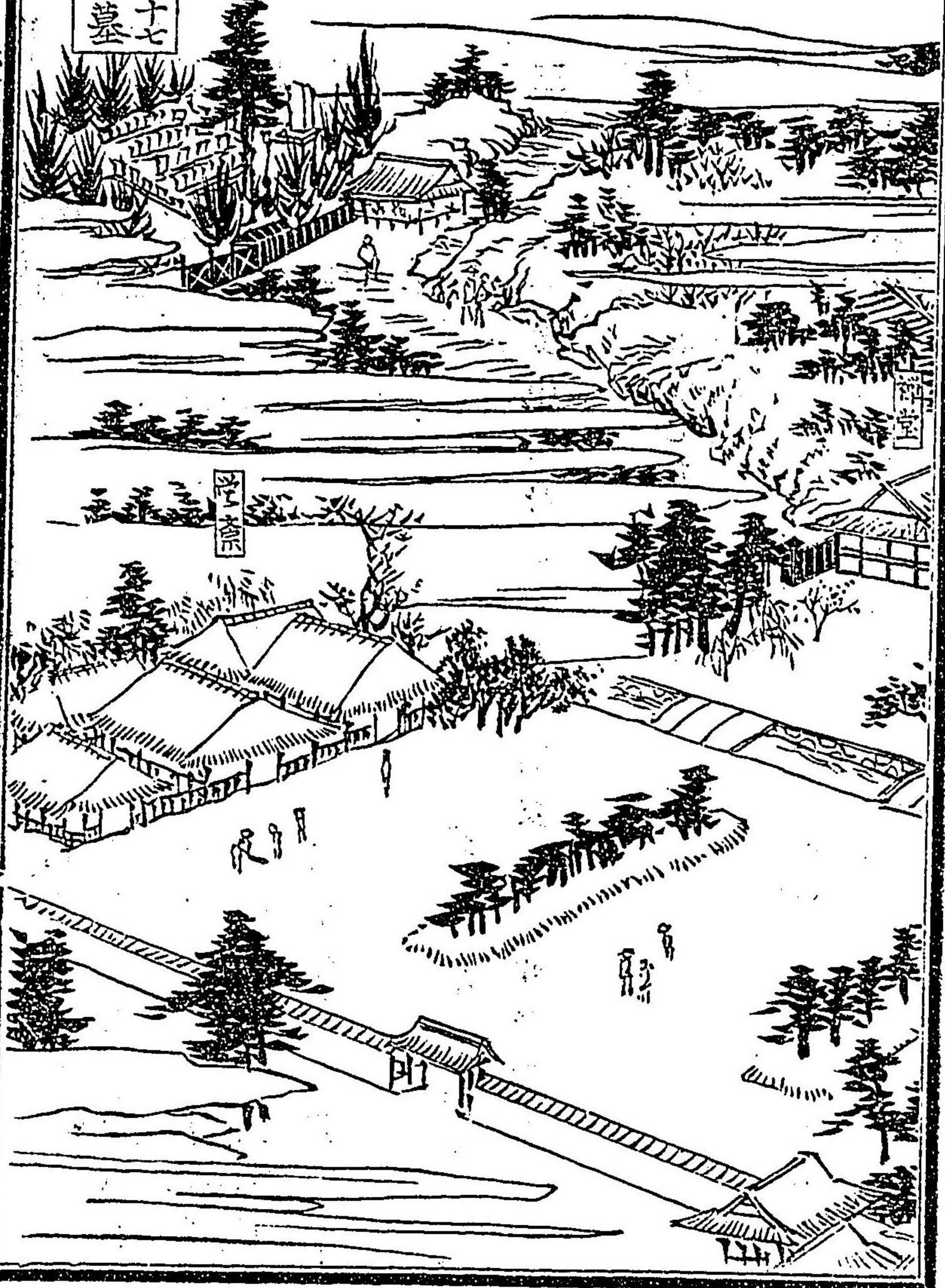
村松喜兵衛六十二歲
 武林唯七三十二歲
 小野寺幸右衛門廿八歲
 倉橋傳助廿四歲
 杉野十平次廿八歲
 間十次郎廿四歲
 前原伊助四十一歲
 岡島八十右衛門卅八歲
 勝田新左衛門廿四歲
 神崎與五郎卅八歲
 奧田定右衛門廿六歲
 間新六廿六歲
 矢頭右衛門七十七歲

泉岳寺之真景



此圖は江戸名園舎より
抄しりし日本名園
の少くも一園として
大なり
なり

四十七
士墓



赤穂美園雪之囀

刃^ニ太^タ及^キ刃^ニ
刃^ニ清^キ機^キ刃^ニ
刃^ニ鄉^キ元^シ刃^ニ
刃^ニ常^キ水^キ刃^ニ
刃^ニ珊^ニ珊^ニ刃^ニ

間瀬孫九郎卅三歳
村松三太夫卅六歳
芽野和助卅六歳
横川勘平卅六歳
三村次郎左衛門卅六歳

武林唯七隆重

三十年來一夢中捨身取義夢尙同父親臥疾故郷有取義捨恩夢共空

天^テ地^チの外^ノにあらじな千種^チたね
もとさく野邊^ノに歸るとおもへば

神崎與五郎則休

空去赤穂窺敵國同心誠乃衆屯酬生前擔扇賣果孰神與

五郎獨則休

十二月十四日

木村岡右衛門貞行

身奇雲漢來海東命因恩義世座中看花香酒跋幾歲時哉
曉天霜雪風

十二月十五日 泉岳寺にて

ものゝふのみちとばかりを一すぢに
おもひたちぬる死出の山道

潮田又之亟高敦

おもひきやわれものゝふの道ならて
御法のににあはんものどり

芽野和助常直

世やいのち枯野にかゝる世や命

大石内藏助良雄

あらたのしおもひは晴る身はすつる

木村貞行

うきよの月にかゝる雲あし

上野介殿首を包物より取出しける時

大石内藏助良雄

その匂ひ雪のあしたの野梅かな

細川家御預之内

小野寺秀知

歳暮に

水にうつる花やもくずに浮かえて

吉田兼亮

ちりしをうらむ庭のむめかえ

ながらへて華をまつべき身あらぬど

ながらへて浮世の春はちかけれど

御法のはあをまつそひさしき

小野寺秀知

未正月

春くれば霞日影又今朝いはや

こゝろのはなのもよふされぬる

原元辰

未正月

おもひきや今朝たつ春よあがらへて

ひつじのあゆみなをまたんとい

小野寺秀知

未正月

神垣もさらにわすれて越やせん

むめの色香のこゝろまよひに

武林隆重

毛利家にて

今朝の春はづかしからぬ寝臥かな

前原宗房

毛利家にて

はるきぬとさしもまらしな年月の

ふりゆく人の雪の老らかみ

二月四日 辭世

大石 良雄

極樂の道のひとすぢ君どもに

阿彌陀をそへて四十八人

小野寺 秀知

今朝のいふ言の葉草もなかりけり

なにのためとて露むすぶらん

神崎 則休

人のたゞいのぬ事をや恨らん

浮世の名さへくらなしにして

富森 正固

今月今日 婦人の命日なれば

先たちし人も有けりけふの日を

つひの旅路のおもひ出にして

村松 秀直

品もなくいき過たりと思ひしに

いままち得たる老のたのしみ

原 元辰

かねてより君と母とにまらせんと

人よりいそく死出のやま道

横川 宗利

ましてしばし死出のおくれの有ぬとも

我さきかけてみち志るべせん

速水 光堯

地水火風空の中より出し身の

たどへてかへるもとのすみかに

間 光延

草まくらむすぶかり寝の夢覺て

とこよにかへるはるの明ぼの

武林隆重

仕合せや死出の山路はな盛り

傳にいづく中村勘助の俳諧師其角が門弟ありしが松平家に御預のうち正月下旬其角が許へ遣しける發句を彼もの切腹の後右の句を巻頭に於て追善の百韻を興行しけるとなり

義士挽詩

林大學頭信篤述

去歳季冬十五日故少府監赤穂城主淺野長矩舊臣大石内藏等異骸同志報讎趨義今茲仲春初四日官裁下命各處死刑雖蒙其志不全天乎命哉果時運乎不堪哀情有感而作曾間壯子無還去易水風寒連袂行炭啞變豫讓薤歌滴浪死田横精誠石粹死何悔義氣冰清生大輕四十六人

等伏双上天猶是佐忠誠

藤井賴齋

醉彈長劔忘春秋蕭鼓佗他多少樓豈啻新鶯怡吾意亦聞義士報君讎

二月六日 尚喜兵衛が妻泉岳寺へ詣て墓所にて斯詠しける

君がため二心なきものゝふの

いのちをすてゝ名を残す哉

爰より外へもゆかじなき魂の

露と消にしこけの下みち

亦内藏助の墓にむかひて

苔の下露ときへてもものゝふの

名こそ雲井に立のぼるかな

櫻鯛さくらだいからし酢すふしの涙なみだかき

俳林はいりん其角きかく

細川越中守儒者

熊谷傳兵衛述

同家中醫官

江村宗因筆

施主堀田彈兵衛

全 氏家平九郎

前二八平吉下有
富森介錯人

大石良雄等四十六人故赤穂城主朝散大夫少府長矩臣也元祿癸未二月某日環葬于武州南泉岳寺長矩墓傍其次如侍君云元祿辛巳三月有天使賀正禮使淺野長矩爲

館伴羽林吉良義英監其事長矩就問有卻其月十四日有答勅之禮長矩傷義英官裁有之長矩自殺令凡有官者復殺則先動者殺之無救法也乃使其家臣獻赤城諸臣伏獻城去於是大石良雄爲之欲復讐初舉謀者半而多變始終同志者四十六人也或在武城或在京師或變姓名或爲商賈添炭隱忍人莫覺其爲復讐者明年壬午十二月十四日夜入義英亭大呼曰長矩臣復讐招鬪者殺不然則否終教義英提首去趣于泉岳寺居義英首於長矩墓所焚香列拜其詞曰尊君嘗刺劔義英其事不成君已伏法爲之臣等不亦痛乎不具戴天乃義已見於禮經則我徒之責復讐販死耳今獻彼首且尊君之所佩劔以庶々下手以遂其志兵無

相是而泣涕遂自詔于法司其言謂陪臣其等復讎於華胄
僭竊罪無所遁請伏其罪速命待泉岳寺官令人數分奇十
七人羽林細川綱利十人毛利綱元十人松平定直九人水
野惠之明年癸未二月官令各令自殺處莞爾如飯臨死有
禮曰某子十九人皆竄凡其所爲當者也譽股者夫也則夫
且成之退則奉天受法死亦安焉卒使當世城目而觀載流
涕聽者其例宜銘曰

惟國之英

忠列蓋世

志成氣充

悽愴可祭

赤穂美譚 雪之曙終

春雨^{はるさめ}志^{こころ}めやかに降^ふいで、平日^{へいじつ}に問^ま來^くる人も見^みえざれば孫^{そん}農^{のう}が高^{たか}
き志^{こころ}しには似^にる可^べくも有^あねど臂^{ひぢ}をまけて花^{はな}宵^よ郷^{きやう}に遊^{あそ}ばんと爲^なし
に金玉^{きんぎよく}堂^{だう}の主人^{しゆじん}端^{はた}なくも入^い來^{きた}りて謂^いらく世^よに赤穂^{あかほ}顛^{てん}末^{まつ}を記^きした
るもの頗^{すこぶ}る多^{おほ}しと雖^{いへ}實^{じつ}録^{ろく}と思^{おも}ひき、僅^{わずか}にして夫^{それ}さへ臆^{おそ}氣^けなる筋^{すぢ}
趣^{おもむ}なからき未^{いま}だ全^{また}く信^{しん}を措^おけに乏^たしければ先生^{せんせい}筆^{ひつ}硯^{いん}のいとまより
より筆^{ひつ}を起^{おこ}し誤^{あや}謬^{まう}を正^{ただ}し欠^かたるを補^{おぎ}ひてよと敷^し浪^{なみ}の頻^{しばしば}りに索^{もと}め
ども自^{おの}個^れ草^{くさ}双^{さう}紙^しを編^あみて營^な業^{ぎやう}といふ爲^なるものから素^{もと}より才^{さい}も無^なく學^{がく}
も無^なく好^{この}めるまゝのすさみ成^{なる}に身^みの程^{ほど}を知らず愁^{なご}ひ古^{ふる}き書^{かき}ども
の穿^{せん}鑿^{さく}だて爲^なんこと盲^{めい}蛇^{へび}の物^{もの}に悚^{おそ}ぬわさくれなめりと只^{ただ}管^{くだ}稻^{いな}舟^{ふね}
の固^い辭^なみ侍^{はべ}りて諾^{うけが}ざりといに其^{その}後^{のち}主人^{しゆじん}何^{なに}某^あ家^けに藏^{かく}する引^ひ用^{よう}の記^き録^{ろく}

赤穂美譚雪之曙

など強ちに借來りて日毎に請るゝこと切なれば漸くに諾ひ相傳
 ふる處の義士傳數部を是彼照合せてつくゞし其の筆を取初め陽
 炎の押へ處あくて覺束なしと思ふ件りに淺果なる考と記し或
 の削り去たり然ど久しく云繼ぎ語り繼て多く世人の耳底に入ら
 る事の有繫に棄るに忍びぞ開と何ぞと云ふに内藏助夜討の夕方
 義士泉岳寺に集りしとき亡君の賜物なりと披露と名刀一振づゝ
 興へたりと云ふ説有て然して夜討の際寺坂吉右衛門の所持した
 る志津三郎兼氏の刀にて思ふ存分働きたりと言ひ此刀の吉右衛
 門亡君の讎を報ぜんとして毎夜笠の紐を擦又ば元結を擦りて調へ
 たりとの話説有バ前後照し合すとき疑ひ無能はき慥れバ内藏
 助が興へたりと云刀の一同にて有ざりしか又討入の夜鏢屋宗

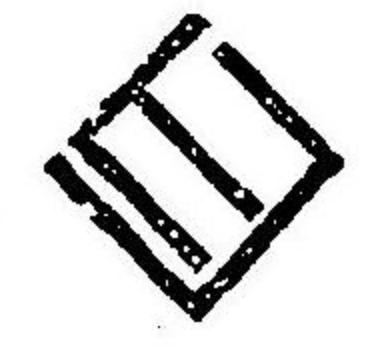
伴山岡角兵衛の妻を伴ひ出吉良どの、寢所を教へる件りに大高
 の姉をも召連云々と有て此女奈にとて吉良家へ入込居たり其
 起因を記さざ又其以前大石瀨左衛門舊主本多侯の使者として淺
 野家へ入來り盜賊詮義云々是も兩侯江戸在府の際ならハ知らず
 江州膳所と播州赤穂と海上數十里遠隔の地方なるに僅か花生壺
 個見當らざとて遙々使者を立られたりと云ふも疑はしく斯く論
 らふとき殆と極り無き如くなれば是等の其儘存し置て敢て筆
 を加へず又淺野家系譜も確かなる書物に依れば多少の違ひある
 ゆゑ改め正さんと思ふうち疾印刷の手に下したる後となりて悔
 とも力及ばず其他にも拙き考へを記載たきこと慚なからねど
 心詞ともに思ふなかばに過ず却て看客の疑念を起されん事を恐

れて筆を閑き侍りしに隙ゆく駒のわがき疾く早晚春去り夏も過
ぎて花紅葉梢の色を染かえ神無月始めと成り萬のこと了りて梓
に上す事とは成ぬるが活業みちの暇あくて深くも目をこ通さね
は文字の違ひ魯魚の誤りも多かる可く見る人幸ひに察し給へか
と

明治十八年十月小園の菊花笑を呈するを見て

銀街處士

柳葉亭繁彦述



松葉香の露をえりて

○正 誤

第二回の目録天使の饗應に老漢淺野を辱かしむと有る公事を弄して老兎淺野を云々又松の
御廊下に仁君吉良を刺んとすと有る私忿に迫りて仁君云々

第四回の目録夢を發き、墓石を發き云々

第五回の目録空城を遞與してと有る空城を奉還して又新居を造營して内藏助云々の良雄云々

第十回の目録拳を上げの下での字を脱す

第十三回の目録服部義士を止む兩國橋と有る兩國の橋に服部義士を止む又大石質問に答ふ
老中の邸と有る老中の屋敷に大石質問に答ふの何れも誤植

八十三丁三行弗曉ハ拂曉○百○六丁五行忠右衛門ハ忠左衛門○百二十三丁四行靈祖ハ靈祖

○百七十七丁十二行醫骸ハ遺骸○二百○五丁十一行若肉ハ苦肉二百二十六丁三行踐別ハ踐

別○二百三十六丁九行舉ハ拳二百六十丁十一行此庫ハ御庫○二百四十四丁四行服ハ腹の誤

明治十八年五月十九日板權免許
全 年九月 出版

定價金壹圓四十錢

編輯人

東京府士族

中村邦太郎

京橋區錦屋町十三番地

出版人

東京府平民

菊地辰三

京橋區竹川町十八番地



發兌元

金玉堂

東京京橋區

竹川町十八番地

印刷所

秀英舍

全西紺屋町二十六番地

東京京橋銀坐四丁目 博聞本社

大 全 南鍋町 兎屋誠

賣 全 芝區三島町 和泉屋市兵衛

全 柴井町 土屋忠兵衛

全日本橋區南傳馬町 叢書閣

所 全 上槇町 吉田金藏

大阪備後町四丁目 博聞分社

東京南鍋町 風文館

全日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛

全 三丁目 九家善七

全 二丁目 山城屋佐兵衛

全 二丁目 小林新兵衛

全本町二丁目 柳川梅次郎

全日本橋西河岸 須原鉄二

全銀座三丁目 和泉屋孝之助

全 四丁目 和泉屋喜太郎

全兩國吉川町 島屋一介

全本町二丁目 瑞穂屋卯三郎

全京橋鎗屋町 大和屋松之助

全芝露月町 栗田信太郎

全南傳馬町 有隣堂

全日本橋通一丁目 大倉孫兵衛

全木挽町一丁目 萬字堂

全神田雉子町 巖々堂

東京元大阪町 法木徳兵衛

全南傳馬町 春陽堂

全横山町三丁目 辻岡屋文助

全尾張町二丁目 上田屋榮三郎

全日本橋通三丁目 加藤正七

大坂本町四丁目 岡島具七

全備後町四丁目 岡島支店

全 全 吉岡平助

全 全 梅原龜七

全南久寶寺町 前川善兵衛

全北久太郎町 柳原喜兵衛

全順慶町 兎屋支店

京都東洞院三條上ル 村上勘兵衛

全寺町三條下ル 田中治兵衛

全佛光寺通烏丸東 東枝吉兵衛

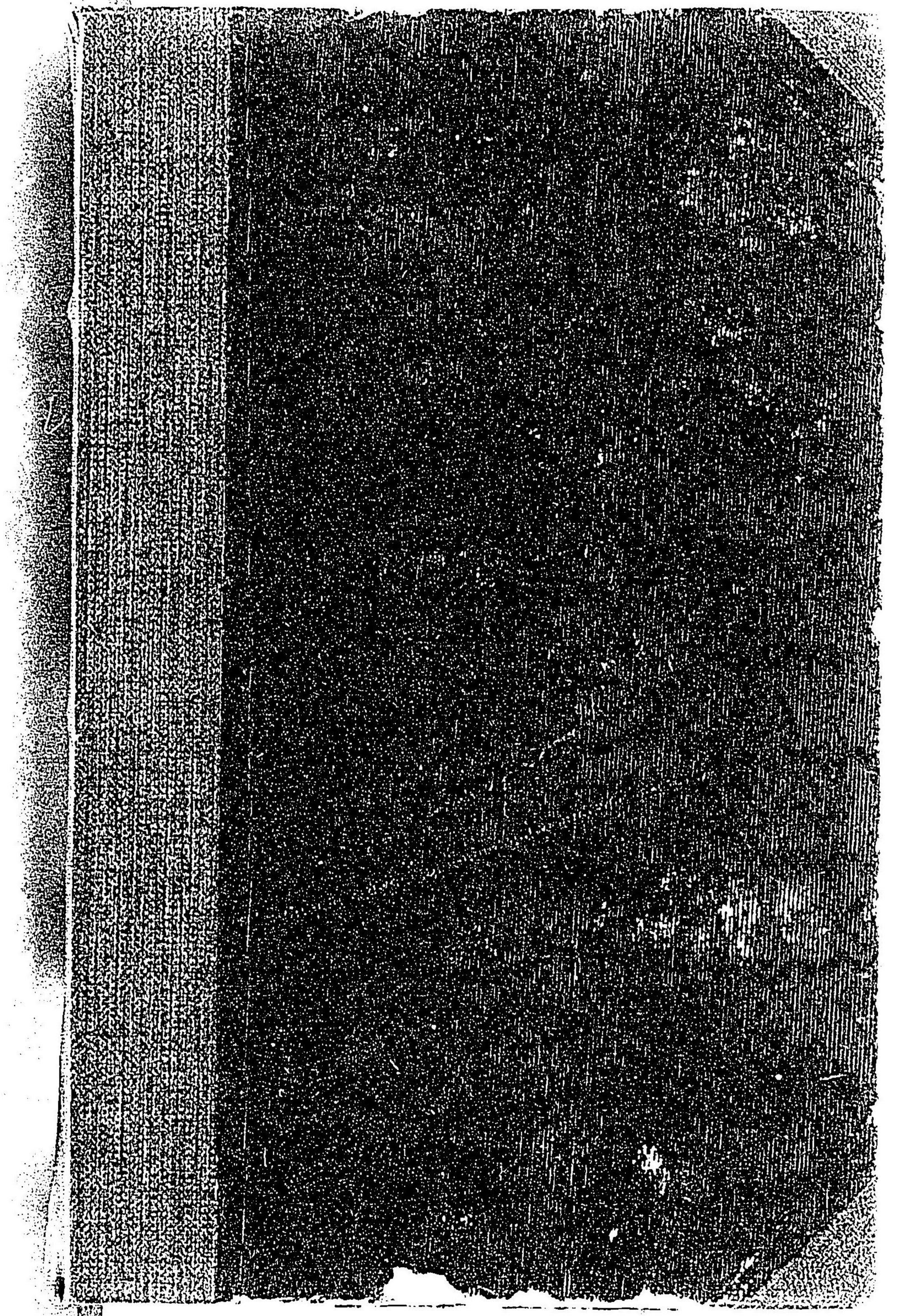
全河原町通 大黒屋太郎兵衛

横濱辨天通四丁目 九家支店

尾州各古屋本町	丸家支店	播州龍野	高尾武治
全	片野東四郎	駿州靜岡	廣瀬市藏
全	石版舎	勢州津	若林堂
神戸元町	熊谷久榮堂	加州金澤	牧野作平
紀州和歌山北町	津田源兵衛	陸中盛岡中ノ橋通	澤田正介
全	平井文助	陸前仙臺大町	木村文助
阿波徳島	阪井萬吉	越後新潟	井筒駒吉
藝州廣島	早速社	越後長岡	松田周平
全	松村善助	同	大橋新太郎
全	友田藤助	江州彦根	新々堂
備前岡山	細謙社	越後高田	本多勝太郎
肥後熊本	長崎次郎	陸奥弘前	野崎九兵衛
伊豫松山	向井藤次郎	野州宇都宮	小林八郎
全	玉井新二郎	常州土浦	柳旦堂本店
筑前福岡	林斧介	全水戸上市泉町	全支店
全	山崎登		
播州姫路	山野長平		

32

169





091524-000-6

32-169

雪の曙

柳葉亭 繁彦 / 著

M18

DBN-2513



